

みたかハンディキャブ 交流紙

# あおぞら

【第107号】 平成23年春季号

発行日 2011年4月11日

協力：朗読ボランティアいろいろの会



発行

NPO法人みたかハンディキャブ

〒181-0012 三鷹市上連雀8-3-10

みたかボランティアセンター2階

TEL 0422-41-0185 FAX 0422-41-0274

E-mail: m-cab@parkcity.ne.jp

ホームページ [みたかハンディキャブ](http://mitakacab.jp)



井の頭公園の桜



特定非営利活動法人みたかハンディキャブ

理事長 宇田邦宏

## ＝未曾有の大災害に接して思うこと＝

3月11日、東北地方太平洋沖で発生した地震と大規模な津波による大震災、同様に12日発生した長野県北部地震で被害にあわれた皆様はもとより、ご家族・関係者の皆様のことを思うとき、大変心が痛み心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災に関しては甚大な被害の状況が刻々と報じられています。災害にあわれた皆様はもとより、特に、障害を持つ人が必要な支援を受けて、避難できているのか、避難所で暮らしているのか、など様々な心配や問題を抱えていると思わざるを得ません。

私たちは、日頃の活動を通じ、大至急かつ継続的に、被災された障害者の人々に対する必要な支援をすべきと考えますが、情報が錯綜するなか具体的な方策が見い出せなく切齒扼腕（せっしゃくわん）、もどかしい限りです。

各地域でのボランティアの活発な活動がテレビや新聞などで報道されています。日本経済新聞に気になる記事がありました。『被災された方々を「助けたい」、あるいは「役に立ちたい」という気持ちが先行し、「来てやっているんだ」、「可哀想だ」などと言葉にしなくても、押しつけがましが態度に出ると、「自発的」というボランティアの真摯な心遣いが、被災者の心に踏み込みすぎ、かえって心を傷つけてしまう恐れがあるといわれます。』

災害時の活動と私たちの日頃の活動とは異なるところがありますが、ボランティアの基本としてこのことを「他山の石」に日頃の活動の糧にしたいと思います。

**=春の一泊交流会を中止します=**

毎年、会員の皆様を楽しみにしていらっしゃる一泊交流会を、今年は趣を変えて栃木県那須高原の新緑を楽しむことをテーマに企画を進めてきました。

ご承知の通り、栃木県は大災害の直接被害を免れたと言え、やむを得ず被災地を離れ一時避難する多数の住民を受入れるなど情勢が大きく変わり、この時期に私たちが訪れることは不適當ではないかと考え、他の地域への計画変更を急遽検討しましたが、時間的に余裕がないため断念せざるを得ない状況になりました。

このような事情により今年5月28日・29日の一泊交流会を中止することといたしましたので、諸般をご理解くださるようお願い申し上げます。 (文責 宇田)

## 平成23年度 総会・懇親会のご案内

と き：平成23年4月24日(日) 10:00より総会  
13:00より午前中の総会報告・懇親会  
(懇親会は利用会員の方々とボランティアの意見交換の場ですので、  
ご意見・ご要望をお持ちいただいでご参加下さい)

ところ：三鷹市社会福祉協議会(福社会館)3階会議室  
利用会員で出席をご希望の方は送迎いたします

### ■ 哀 悼

### 田房さんを偲んで

副理事長 福西 宏

年明け間もなく訃報に接し言葉を失いました。あの豪快で又、何とも形容し難い優しいひげの笑顔がもう見られないのです。何とも悲しい限りです。

キャブに入会されて二年余のお付き合いでしたが、最高の仲間でした。ご見識も広くこれからの我々の活動に、大いに貢献される事を信じて疑いませんでした。

福祉有償運送講習会にも参加して頂き講師として期待されていたところで、我々も得難い人を得て一安心と云うときでした。とても残念でなりません。

柔道四段の猛者でお酒が大好きで、時には、ご自分で作られた美味しい燻製を仲間に振舞われたり、又飲む程に陽気になってダンスを踊りだしたりして愉快で愛すべきお人柄でした。

悔やんでも悔やみきれません。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

野村 赳史

皆様こんにちは、はじめまして野村と申します。よろしく申し上げます。  
と言いましても平成21年4月からハンディキャブでお世話になっておりますので、そろそろ2年が経過しようとしています。

私がこの組織を知ったきっかけは、今までの職場のみの人間関係ではなく、当時三鷹に引っ越してまだ4・5年ということ、時間的にも余裕が出てくることもあり、少し地元の人とのふれあいをと思いつつ三鷹市報をなんとなく読んでいましたところ「みたかハンディキャブ」のボランティア募集広告が目にとまり、業務内容も福祉車両の運転をすることのようでしたので、先ずはこの辺りからと思い気楽に応募したような次第です。

友人から何故ボランティアをしているか聞かれることがあり、その疑問については、「人という字はお互いが支えあう」という意味もあり、自分としては人の為に何か役立つものと思っ  
て行っていると答えている状況です。しかし、現実には私自身も新しい出会いもあり、いろいろな意味で我が身も楽しんでお手伝いさせて頂いているのが現状です。

このことは誠にありがたく新たに知り合えた方々に感謝しております。

最近の日本はようやく鉄道の駅でのエレベーター設置等バリアフリー化が進んでおりますが、まだまだ整備されているとは言い難いと思います。

私が今から15・6年前オーストラリア、ニュージーランドへ出張した時たまたま車いすを利用している方と一緒に、初めて車いすを押した際に、この両国の道路状況等が非常にバリアフリー化されており、障害者・高齢者にとってやさしい国であったと思いつつ、帰国後当時の日本が如何に整備なされていないかわかった思いでいました。

「みたかハンディキャブ」は定款第3条に規定している、「在宅介護を支援するため、歩行困難な障害者および高齢者に対する外出支援……の事業を行い地域副社の向上に寄与する」ことを目的として設立されております。この素晴らしいボランティア活動の目的に少しでもお役に立てるように私自身今後とも努力したいと考えている次第ですが、他の要件もあり、お手伝いする実施回数も月に数回程度のみになってはいますが、皆様のご指導のほど、今後ともよろしく願いたします。



永井 民義

仲のいい阿部好美 V0 からボランティアをするようにいわれてハンディキャブに入りました。仕事はタクシーの運転手をしています。キャブの運行はゆっくり走れてとてもいい。

生まれは北海道白老で、料理も歌も女性も大好き。

(＊調理師免許を持つ本格派西洋料理です。)

今回初めて阿部 V0 からひとり立ちしてボランティア研修会に参加しました。

いろんな話が聞けてとてもいい勉強になりました。

(研修の帰り A 号車のハンドルを握る永井 V0 に羽生 PA でインタビュー／KAI 記)

追伸：このインタビュー後、A 号車は東北道→外環→首都高速を羽田方面に突っ走って行きました。先に戻ったみんなをヒヤヒヤさせましたが 15 分おくれで無事帰着。ホッ！

## 運転ボランティア退任挨拶

波多野 育男



理事長、事務局、運行部、そして運転ボランティアの皆さん、長年大変お世話になりました。平成23年1月31日に定年退職致しました。そして月例会の時キャブの車の窓にバイザーをつけて頂くようお願い致しました。すぐに全車につけて頂きまして本当に有難う御座いました。

いつも運行から帰ると瀬口さん、高麗さん、家村さんが温かいお茶そして冷たいお茶とお茶菓子まで出して頂きそれを頂きながら皆さんと色々な話をして帰りました。そして20回以上利用会員の皆さんと一泊交流会、日帰り交流会、研修旅行、暑気払いの会など。とても楽しい旅行が出来ました。

ハンディキャブはとても気楽で大事な職場です。運転ボランティアの皆さんこれから先の長い仕事です。無事故で運行部の方、事務局の方に心配を掛けない様をお願い致します。

今は1階のボランティアセンターの奥様方に声を掛けて頂きまして私の仕事の合間に「ミニミニ広場」の配布をしたり、「はばたけ」の障害者の皆さんと児童公園の掃除を手伝っています。障害者の皆さんが、「波多野さん」、「波多野さん」と声を掛けてくださるのでこちらが障害者かよくわかりません。とても楽しいです。

4月8日には「老人ホームはなかいどう」にお花見のお手伝いに行きます。

とても楽しみです。伊藤の奥様も見えるそうです。嬉しいです。お待ちしております。

## 那須休暇村ボランティア研修会

### ■研修会レポート

紺野 裕

今回のボランティア研修は5月の一泊交流会の実踏を兼ねて企画・実施されました。浅見・伊藤両理事が中心となり、私も会計として補助役で参加しました。只、私は昨年12月に前立腺ガンの手術を行ってから、初めての車の遠出であり、又一泊研修という事で大変不安を感じての参加でした。特に、トイレ休憩場所の選定には積極的に発言をさせていただきました。それは、自分の積極的な発言が一泊交流会参加の皆さんのお役に立てばという強い思いからでした。

利用者の皆さん今回の企画は、地震等の影響もあり、残念ながら中止となりましたが、次回一泊交流会への積極的な参加をお待ちいたしております！

### ■研修会参加感想

佐藤 隆志

皆様、こんにちは。昨年入会の新人ボランティアの佐藤隆志です。今回は一泊研修会の寄稿ということで、失礼ながら自己紹介は次回の機会とさせていただきます。

私は、この研修会に参加させていただきましてたくさんのことを学びました。一泊交流会の下見として高速道路休憩所、観光地、ホテルなどの利便性、バリアフリー化などを、実際に利用者さんの立場で真剣に考えることができました。

夜は温泉に入り、お食事、お酒などもご一緒させて頂き、かけがえのない時間を、キャブの皆さんと過ごせたことは本当に楽しくてうれしかったです。

たった一泊の旅でしたが、この研修会で得た物は一生心に残っていくと思います。

皆様、本当にどうもありがとうございました。

## 事務局からのお知らせとお願い

- ☆緊急連絡先が変更になっています。以前の連絡先にお電話をされませんよう、お願いいたします。  
今号をご確認の上、携帯電話・電話帳などへの登録の変更をお願いします。
- ☆新年度になりましたら年会費のご用意をお願いします。4月にお送りする総会資料の中に封入の郵便払込票で振込(手数料がかかります)、または運行の際にボランティアにお渡し下さい。  
当会は2年間会費が未納になると退会扱いとなります。今後ご利用にならない場合もご連絡下さい。
- ☆運行車輛により、大きな車椅子が乗せられないものや固定ができないものがあります。お迎えに行った車に乗り込めないケースがありました。このような場合、運行を中止せざるを得ません。これを避けるため、  
ご使用の車椅子が変更になる場合は必ず事前に事務局までお知らせ下さい。また体調の変化により車椅子の使用をお勧めする場合があります。車椅子をお持ちでない方が車椅子をご利用になる場合は、社会福祉協議会や介護保険サービス等でご相談になるようお願いいたします。
- ☆運転ボランティアは道路交通法により車から離れることができません。また万一のことを考え、身の回りのお世話(自宅の鍵をかける、車椅子を押す、その他の身体介助等)をすることはできません。必要な方はご自身で介助者をご手配下さい。
- ☆ボランティアは釣銭の持ち合わせがありません。市外運行のご利用の際は前日確認などで金額を確認の上、お釣りのないようご用意をお願いします。
- ☆連絡ミスやトラブルの原因になりますので連絡事項は必ず事務局を通すようお願いいたします。  
運行利用中に予約や時間変更等の連絡事項はボランティアにお伝えにならないで下さい。

### 今後の予定

- 4月 10日(日) 理事会(理事・監事、参加希望者)、運行部会  
24日(日) 23年度総会・月例会(正会員)、総会報告・懇親会 (於:福祉会館)  
当日参加される利用会員さんの無料送迎を行います。詳しくは事務局まで。
- 5月 8日(日) 理事会(理事・監事、参加希望者)  
**ゴールデンウィークの利用予約は別紙参照**  
14日(土)・15日(日) 福祉有償運送運転者講習会  
22日(日) 月例会(正会員)  
**28日(土)・29日(日) 今回の一泊交流会は中止とさせていただきます**
- 6月 12日(日) 理事会(理事・監事、参加希望者)  
26日(日) 月例会(正会員)
- 7月 10日(日) 理事会(理事・監事、参加希望者)、運行部会  
24日(日) 月例会(正会員)

### **★みたかハンディキャブ緊急連絡先★**

- ☆事務局時間外(17:00～翌9:00、日・祭日)で突発に発生した翌日及び当日朝のキャンセル等で緊急に連絡が必要な案件は緊急連絡先へ連絡をお願いします。
- ☆なお、前日確認・予約は出来ませんので、ご理解の上、ご利用下さい。

副理事長・運行責任者 福西宏 080-1102-7281

万一、上記連絡先で連絡が取れない場合のみ、下記にご連絡下さい。

↑切り取ってご活用下さい

## ハンディ小話三題

### 最高機密

ハンディキャブの駐車場で、男が叫んだ。  
「宇田理事長は、馬鹿野郎だ！」  
周りにいた人は、慌ててたしなめた。  
宇田理事長は、笑顔で男に歩み寄り、落ち着き払って言った。  
「君の言ったことが、なぜ不都合なのか教えてあげよう。」  
「それは、ハンディキャブの最高機密情報なのだ！」

### 父親

〇〇さんの居間で母親と娘がテレビドラマを見ていた。  
画面には、有名な俳優の息子が出ていた。  
母親が「お父さんのほうが、ずっといいわよねえ！」と言った。  
隣の部屋にいた〇〇さんが、普段見せないような  
満面の笑みで居間に入ってきた。

きみまろ

この「交流紙あおぞら」は朗読ボランティアういろろうの会の協力で朗読テープで  
視覚障害者の会員の皆様にお届けしています。  
ういろろうの会の皆様のご協力に感謝しております。

### 編集後記

このたびの大震災に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。  
今回の震災の復興は長期にわたる支援が必要だと思います。  
小さな力が大きな力になります。私達も自分にできる支援を続けていきましょう。  
「交流紙あおぞら春季号」をお届けします。自称クラーク・ゲブルなる編集長をお迎えしその厳  
しい指導の下、創りました。少し締まった「あおぞら」になっていますか？  
ご感想をお寄せください。この紙面は会員皆様の交流の場でもあります。  
今年度もどうぞご協力よろしくお願い致します。  
尚、本号に寄稿頂いた皆様の顔写真につきましては、ご本人のご承諾を頂いた上で、  
掲載をさせて頂いております。  
利用会員の皆様、関係各位ならびにボランティアの皆さんに、名前と顔が一致して  
より身近に感じて頂ければ幸いとの思いで企画したものです。  
ご理解のほど、宜しくお願いします。

(^;^) KAIKO



さくら草